

お願いとご注意

— 重要なお知らせ —

507SH

2016年7月 第1版発行 ソフトバンク株式会社
製造元: シャープ株式会社

この印刷物は再生紙を使用しています。

TINSJ ◆◆◆◆ AFZZ
16G ◆◆◆◆ AI80①

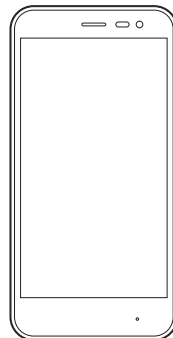
目次

お買い上げ品の確認.....	2
マナーとルールを守り安全に使用しましょう.....	3
SIMカード/SDカードについて.....	6
本機の充電.....	10
画面ロックについて.....	12
暗証番号について.....	13
PINコードについて.....	14
おもな仕様.....	15
使用材料.....	17
安全上のご注意.....	19
お願いとご注意.....	35
防水・防塵性能について.....	47
知的財産権について.....	53
本製品の比吸収率(SAR)について.....	59
General Notes.....	67
ソフトウェア更新について.....	70
保証とアフターサービス.....	72
お問い合わせ先一覧.....	78

お買い上げ品の確認

このたびは、507SHをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■ 507SH本体



- ※ 電池は、本機に内蔵されています。
- ※ 本体の背面カバーは外れません。

■ テレビアンテナケーブル(試供品)



- クイックスタート
- お願いとご注意(本書)
- 保証書

- 本書の内容の一部でも無断転載することは禁止されています。
- 本書の内容は将来、予告無しに変更することがございます。
- 本書の内容はAndroid 6.0 Marshmallowで記載しています。
- 本機はmicroSD/microSDHC/microSDXCカードを利用できます。本書ではmicroSDカード(microSDHC/microSDXCカードを含む)を、以降「SDカード」と記載いたします。

マナーとルールを守り安全に使用しましょう

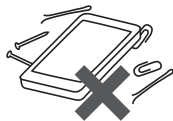
ルールを守りましょう

本機の使いかたを誤ると、機器の発熱・破壊・感電といった危険を伴い、死亡または重傷を負う恐れがあります。以下の内容および「安全上のご注意」(P.19ページ)をお読みのうえ、正しくお使いください。

⚠️ こんな使いかたはやめましょう

■ 端子を接触させない

端子に金属製のヘアピンなどが触れないようにしてください。ショートによる火災や故障などの原因となります。



■ 分解／改造しない

キャビネットを開けたり改造しないでください。感電やけがの原因となります。修理などはワイモバイルショップにご依頼ください。



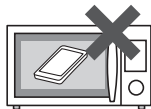
■ 防水を過信しない

防水であっても、水中に沈めたり大量の水をかけると、内部に水が入り火災や感電の原因となります。また、真水以外はかけないでください。



■ 加熱しない

乾燥などの目的で、電子レンジなどの加熱調理機器に入れないでください。また、高温になる場所で使用しないでください。



■ 指定品以外は使用しない

ACアダプタなどは必ず指定のものをお使いください。



■ 運転中は使用しない

自動車などの運転中は絶対に使用しないでください。メールを見るだけで処罰の対象となります。



⚠️ 指示に従って使用しましょう

■ 航空機内

航空会社の指示に従って、ご使用ください。本機の電波により、運航の安全に支障をきたす恐れがあります。

■ 病院内

各医療機関からの指示に従って、ご使用ください。本機の電波により、医用電気機器に影響を及ぼす可能性があります。

マナーを守りましょう

本機をお使いになるときは、周囲への気配りを忘れないようにしましょう。

次のような場所では、特にご注意ください。

■ 電車やバスなどの交通機関

車内のアナウンスや掲示に従いましょう。

■ 劇場や映画館、美術館など

周囲の迷惑にならないよう電源を切っておきましょう。

■ レストランやホテルのロビーなど

静かな場所では、大きな声での通話は控えましょう。

■ 街の中

通行の妨げにならない場所で使いましょう。

■ 混雑した場所

事前に機内モードに設定、または、電源を切ってください。付近にペースメーカーなどを装着されている方がいると、誤動作などの影響を与えることがあります。

マナーを守るための便利な機能

マナーモード

着信があったりアラームが動作しても、本機から音が出ないようにします。

機内モード

電源を入れたまま、電波の送受信だけを停止します。

SIMカード / SDカードについて

SDカードについて

本機は、SDXC規格のSDカード(microSDXCカード)に対応しています。

- microSDXCカードは、SDXC規格対応機器でのみご使用いただけます。
- 本機とSDXC規格非対応機器との間でデータをやりとりするときは、本機と相手機器の規格両方に準拠したSDカード(microSD / microSDHCカード)をご使用ください。
- 万一、本機で使用したmicroSDXCカードをSDXC規格非対応機器に取り付けただけの場合は、データが破損することがあります。また、フォーマット(初期化)を促すメッセージが表示された場合は、実行しないでください。
 - フォーマットすると、microSDXCカード内のデータはすべて消去され、異なるファイルシステムに書き換えられます。
 - フォーマットにより、本来の容量で使用できなくなることがあります。
 - データが破損したmicroSDXCカードの再使用にあたっては、SDXC規格対応機器での再フォーマットが必要です。

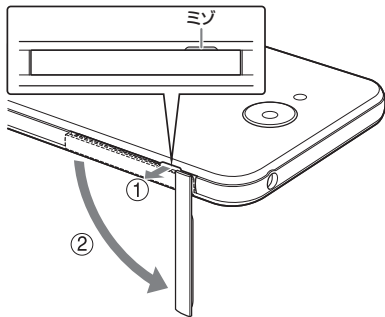
SDカード利用時のご注意

- SDカードを無理に取り付けたり、取り外したりしないでください。
- SDカードは、小さなお子様の手の届かない所で保管 / 使用してください。誤って飲み込むと、窒息する恐れがあります。
- 端子面に手や金属で触れないでください。
- SDカードの登録内容は、事故、故障、修理、機種変更などの際や、その他の取り扱いなどによって、消失または変化してしまうことがあります。大切なデータは定期的にバックアップをとっておかれることをおすすめします。なお、データが消失または変化した場合の損害につきましては、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- データの読み出し中や書き込み中は、絶対に本機の電源を切らないでください。
- データの消去や上書きなどにご注意ください。

カードの取り付け／取り外し

① カード挿入口キャップを開く

- ミゾに指先をかけて手前に引き出し(①)、矢印の方向に回転させて開いてください(②)。



② カードの取り付け／取り外しをする

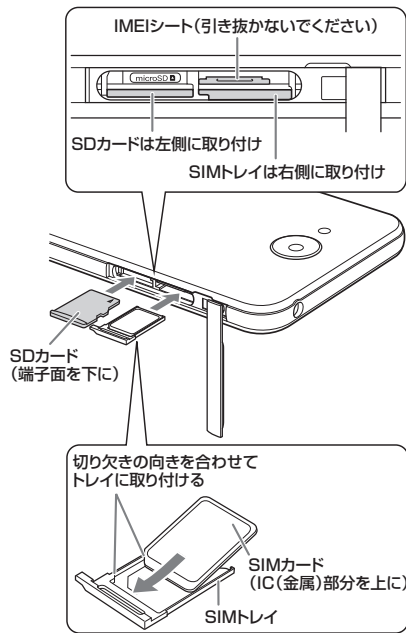
■ SIMカードについて

- 取り付け／取り外しは必ず電源を切ったあとで行ってください。
- SIMカードは、あらかじめSIMトレイに取り付ける必要があります。
- SIMトレイを取り外す際は、SIMトレイを強く引き出したり、斜めに引き出したりすると、破損の原因となります。SIMトレイに指をかけて、ゆっくりと水平に引き抜いてください。
- 空のSIMトレイを取り付ける際は、SIMトレイを斜めに差し込むと破損の原因となります。SIMトレイの向きに注意して、奥までゆっくりと水平に差し込んでください。

■ SDカードについて

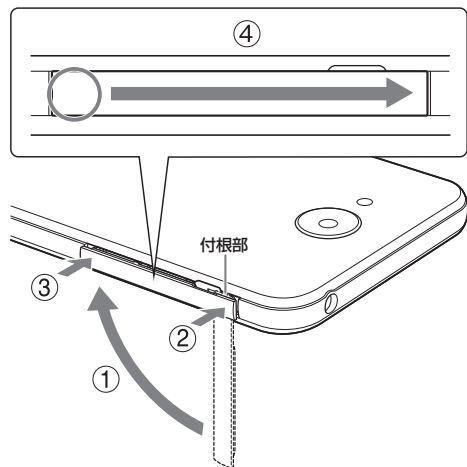
- あらかじめSDカードのマウントを解除してください。
- SDカードを取り外す際は、SDカードを軽く押し込んだあと、指を離します。SDカードが少し飛び出てきますので、ゆっくりと水平に引き抜いてください。

SIMカードやSDカードの取り付けは、位置や向きに注意して差し込んでください。



3 カード挿入口キャップを閉じる

- カード挿入口キャップを①の方向へ上げ、付根部を収納し(②)、本機とカード挿入口キャップにすき間が生じないように合わせ、矢印の方向に押しつけて閉じてください(③)。閉じる際は、○部分から付根部の方向へなぞるようにしっかりと押しつけてください(④)。



本機の充電

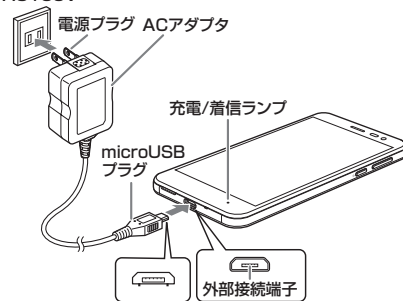
お買い上げ時、本機は十分に充電されていません。
本機を初めて使うときは、必ず充電してから、電源を入れてください。

- 電池残量が少なくなっている、電源が入らないことがあります。
- 充電しても電源が入らない場合は、お問い合わせ先(☎ 78 ページ)へご相談ください。

ACアダプタを利用する

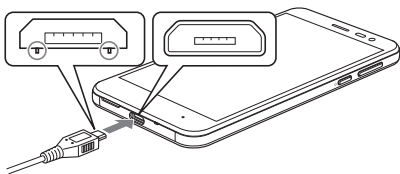
- ACアダプタはオプション品です。
必ずオプション品(別売)の「ACアダプタ1.0A(AC02-MU-K) [ZSDAY2]」をお使いください。
- ACアダプタ1.0A(AC02-MU-K) [ZSDAY2]の取扱説明書を参照してください。

家庭用ACコンセント
AC100V



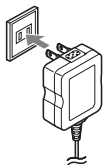
1 本機の外部接続端子に、ACアダプタのmicroUSBプラグを差し込む

- microUSBプラグを誤った向きに差し込むと、本機の外部接続端子が破損することがあります。microUSBプラグの形状と向きをよく確かめて、突起(○部分)を下にして差し込んでください。

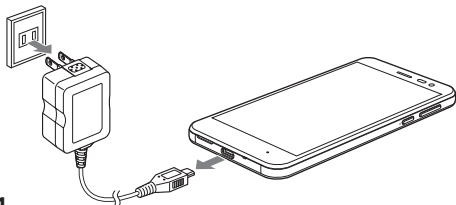


2 ACアダプタの電源プラグを起し、家庭用ACコンセントに差し込む

- 充電/着信ランプが橙色に点灯することを確認してください。
- 充電が完了すると、充電/着信ランプが緑色に点灯します。



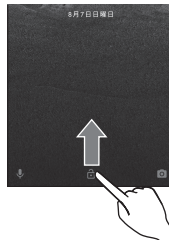
3 充電完了後は、本機の外部接続端子から、ACアダプタのmicroUSBプラグを取り外し、ACアダプタの電源プラグを家庭用ACコンセントから抜き、電源プラグを元の状態に戻す



11

画面ロックについて

一定時間操作しないでおくと、画面が消え画面ロックが設定されます。☑(本機右側面のキー)を押すとロック画面が表示されます。



- お買い上げ時は画面上を上にドラッグすると、画面ロックが解除されます。セキュリティを強化するため、画面を指でなぞる形を登録して解除したり、PINやパスワードを入力して解除したりするように設定することもできます。詳しくは、Android One ヘルプを参照してください。

解除方法設定時のご注意

- 画面ロック解除に設定したパターン/PIN/パスワードはメモに控えるなどして、お忘れにならないようご注意ください。お忘れになった場合は、最寄りのワイモバイルショップにて所定の手続きが必要となります。その際、お客様が登録/設定した内容が消失しますのでご了承ください。

12

暗証番号について

ご契約時の4ケタの番号です。契約内容の変更や、オプションサービスを一般電話から操作するときなどに使います。

暗証番号はお忘れにならないよう、他人に知られないようご注意ください。

他人に知られ悪用されたときは、その損害について当社では責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。



- 万一お忘れになった場合は、所定の手続きが必要となります。詳しくは、ワイモバイルホームページを参照してください。

PINコードについて

PINコードとは、SIMカードの暗証番号です。第三者による本機の無断使用を防ぐために使います(SIMカードお買い上げ時は「9999」に設定されています)。

- 電源を入れたとき、PINコードを入力しないと本機を使用できないように(SIMカードロックを設定)することができます。

PINコードを変更する(SIMカードをロック)

- 1 ホーム画面で   (設定) → **セキュリティ** → **SIMカードロック設定**
- 2 **SIMカードをロック** → 現在のPINコード入力 → **OK**
 - SIMカードロックが設定され、PINコードが変更できる状態となります。
- 3 **SIM PINの変更** → 現在のPINコード入力 → **OK** → 新しいPINコード入力 → **OK** → 新しいPINコードを再度入力 → **OK**

PINコードの入力間違いについて

- PINコードの入力を3回間違えると、PINロックが設定され、本機の使用が制限されます。

PINロックを解除するとき

- お問い合わせ先(☎ 78ページ)で、「PINロック解除コード(PUKコード)」をご確認ください。
 - PUKコードの入力を10回間違えると、SIMカードがロックされ、本機が使用できなくなります。このときは、「ワイモバイルショップ」にてSIMカードの再発行(有償)が必要になりますので、ご注意ください。

おもな仕様

仕様変更などにより、内容が一部異なることがあります。

507SH本体

サイズ (幅×高さ×奥行)	約◆◆×◆◆◆×◆◆mm(突起部除く)
質量	約◆◆◆g
最大出力	3G:◆◆◆W GSM(900MHz):◆W GSM(1800MHz,1900MHz):◆W 4G:◆◆◆W
内蔵電池容量	◆◆◆◆mAh
連続通話時間※1	約◆◆◆◆分(3Gモード) 約◆◆◆◆分(GSMモード) 約◆◆◆◆分(VoLTE※2モード)
連続待受時間※3	約◆◆◆時間(3Gモード) 約◆◆◆時間(GSMモード) 約◆◆◆時間(4Gモード:AXGP網) 約◆◆◆時間(4Gモード:FDD-LTE網)
テレビ連続視聴時間※4	約◆◆時間
充電時間 (本機の電源を 切って充電した 場合)	約◆◆◆分 (ACアダプタ 1.0A(AC02-MU-K) [ZSDAY2] 使用時)

- ※1 連続通話時間とは、電池の充電を満たし、電波が正常に受信できる静止状態から算出した平均的な計算値です。
- ※2 Voice over LTEの略。LTEのネットワークで音声通話を可能にする技術。
- ※3 連続待受時間とは、電池の充電を満たし、通話や操作をせず、電波が正常に受信できる静止状態から算出した平均的な計算値です。データ通信を無効に設定したときの数値です。また使用環境(充電状況、気温など)や機能の設定状況などにより、ご利用時間が変動することがあります。

- ※4 テレビ連続視聴時間とは、電池の充電を満たし、「明るさの自動調節」をOFFにし、横画面フルスクリーン表示、イヤホンマイクを使用し、音量最大、電池残量約10%を残した計算値です。電波状況、再生コンテンツにより、ご利用時間が変動することがあります。

- お使いの場所や状況、設定内容によって、表内の時間は変動します。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術で作られていますが、画素欠けや常時点灯する画素がある場合がありますので、あらかじめご了承ください。

付属品

■ テレビアンテナケーブル

ケーブルの長さ	約◆◆◆mm(プラグ/ジャック部含む)
質量	約◆◆g
4極ミニプラグ	丸型、直径3.5mm、4極

使用材料

507SH本体

使用箇所	使用材料/表面処理
ディスプレイ面	◆◆◆/◆◆◆
背面	◆◆◆/◆◆◆
外装(金属部)	◆◆◆/◆◆◆
外装(樹脂部)	◆◆◆/◆◆◆
充電/着信ランプ	◆◆◆/◆◆◆
電源キー	◆◆◆/◆◆◆
音量Up/音量Down キー	◆◆◆/◆◆◆
カメラパネル	◆◆◆/◆◆◆
カメラ飾り	◆◆◆/◆◆◆
受話口 メッシュ	◆◆◆/◆◆◆
スピーカーメッシュ	◆◆◆/◆◆◆
イヤホンマイク端子の 周囲	◆◆◆/◆◆◆
外部接続端子(金属部)	◆◆◆/◆◆◆
外部接続端子(樹脂部)	◆◆◆/◆◆◆
外部接続端子の周囲	◆◆◆/◆◆◆
カード挿入口キャップ	◆◆◆/◆◆◆
カード挿入口キャップ のツメ、ヒンジ部	◆◆◆/◆◆◆
カード挿入口キャップ のパッキン	◆◆◆/◆◆◆
SIMカードスロット	◆◆◆/◆◆◆
SDカードスロット	◆◆◆/◆◆◆
SIMトレイ	◆◆◆/◆◆◆
IMEIプレート	◆◆◆/◆◆◆




付属品

■ テレビアンテナケーブル

使用箇所	使用材料/表面処理
イヤホンマイク端子(樹脂部)	◆◆◆/◆◆◆
イヤホンマイク端子(金属部)	◆◆◆/◆◆◆
コード	◆◆◆/◆◆◆
プラグ(樹脂部)	◆◆◆/◆◆◆
プラグ(金属部)	◆◆◆/◆◆◆







安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

 危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷※1を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷※1を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷※2を負う可能性が想定される場合および物的損害※3の発生が想定される」内容です。

- ※1 重傷：失明・けが・やけど(高温・低温)・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものを指します。
- ※2 軽傷：治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど(高温・低温)・感電などを指します。
- ※3 物的損害：家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害を指します。

禁止・強制的絵表示の説明

 禁止	禁止(してはいけないこと)を示す記号です。
 分解禁止	分解してはいけないことを示す記号です。
 水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
 濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
 指示	指示に基づく行為の強制(必ず実行していただくこと)を示す記号です。
 電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

本機、SIMカード、テレビアンテナケーブル、
ACアダプタ(オプション品)の
取り扱いについて(共通)

 危険

高温になる場所や熱のこもりやすい場所(火のそば、暖房器具のそば、こたつや布団の中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など)で使用、保管、
放置しないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

電子レンジ、IH調理器などの加熱調理器、圧力釜などの高圧容器に入れたり、近くに置いたりしないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

砂や土、泥を掛けたり、直に置いたりしないでください。また、砂などが付着した手で触れないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
防水・防塵性能については、「防水・防塵性能について」(P.47ページ)をご参照ください。



禁止

水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)で濡れた状態では、充電しないでください。
火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
防水・防塵性能については、「防水・防塵性能について」(P.47ページ)をご参照ください。



禁止

分解、改造をしないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



分解禁止

水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)で濡らさないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
防水・防塵性能については、「防水・防塵性能について」(P.47ページ)をご参照ください。



水濡れ禁止

充電端子や外部接続端子に水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)を入れないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
防水・防塵性能については、「防水・防塵性能について」(P.47ページ)をご参照ください。



水濡れ禁止

オプション品は、ワイモバイルが指定したものを
使用してください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



指示

 警告

落下させる、踏みつける、投げつけるなど強い力
や衝撃、振動を与えないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

充電端子や外部接続端子に導電性異物(金属片、鉛筆の芯など)を接触させたり、ほこりが内部に入ったりしないようにしてください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

使用中や充電中に、布団などで覆ったり、包んだりしないでください。

火災、やけどなどの原因となります。



禁止

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。

過充電などにより、火災、やけど、けがなどの原因となります。



指示

ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する可能性のある場所や粉塵が発生する場所に立ち入る場合は必ず事前に本機の電源を切り、充電をしている場合は中止してください。



指示

引火性ガスなどが発生する場所で使用すると、爆発や火災などの原因となります。
ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する可能性のある場所や粉塵が発生する場所に立ち入る場合は必ず事前に本端末の電源を切り、充電をしている場合は中止してください。
引火性ガスなどが発生する場所で使用すると、爆発や火災などの原因となります。

使用中、充電中、保管中に、異臭、異音、発煙、発熱、変色、変形などの異常がみられた場合は次の作業を行ってください。



指示

- 電源プラグをコンセントから抜く。
 - 本機の電源を切る。
- 上記の作業を行わないと、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



注意

破損したまま使用しないでください。
火災、やけど、けがなどの原因となります。



禁止

ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。パイブレータ設定中は特にご注意ください。
落下して、けがなどの原因となります。



禁止

湿気やほこりの多い場所や高温になる場所での使用、保管はしないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。
防水・防塵性能については、「防水・防塵性能について」(P.47ページ)をご参照ください。



禁止

子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの方法を教え、誤った使いかたをさせないでください。
けがなどの原因となります。



指示

乳幼児の手の届く場所に置かないでください。
誤って飲み込んだり、けが、感電などの原因となります。



指示

本機を長時間連続使用される場合や充電中は温度が高くなる場合がありますのでご注意ください。
また、眠ってしまうなどして、意図せず長時間触れることがないようにご注意ください。



指示

アプリ、通話、データ通信、テレビや動画視聴など、長時間の使用や充電中は、本機やACアダプタの温度が高くなる場合があります。温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌の赤みやかゆみ、かぶれ、低温やけどなどの原因となります。

本機の取り扱いについて



危険

火の中に投入したり、熱を加えたりしないでください。

内蔵電池の発火、破裂、発熱、漏液により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



禁止

釘(鋭利なもの)を刺したり、ハンマー(硬いもの)で叩いたり、踏みつけたりするなど過度な力を加えないでください。

内蔵電池の発火、破裂、発熱、漏液により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



禁止

内蔵電池内部の物質などが目の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。

内蔵電池内部の物質などの影響により、失明や体調不良などの原因となります。



指示

ディスプレイ内部の物質などが目や口の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。ディスプレイ内部の物質などの影響により、失明や体調不良などの原因となります。



指示



警告

モバイルライトの発光部を人の目に近づけて点灯、発光させないでください。特に、乳幼児に対しては十分に距離を離してください。

視力障害などの原因となります。また、目がくらんだり驚いたりしてけがなどの事故の原因となります。



禁止

自動車などの運転者に向けてモバイルライトを点灯、発光しないでください。

運転の妨げとなり、事故などの原因となります。



禁止

点滅を繰り返す画面を長時間見ないでください。けいれんや意識喪失などの原因となります。



禁止

本機内のSIMカードやSDカード挿入口に水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)や金属片、燃えやすいものなどの異物を入れないでください。

また、SIMカードやSDカードの挿入場所や向きを間違えないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

カメラのレンズに直射日光などを長時間あてないでください。

レンズの集光作用により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



禁止

航空機へのご搭乗にあたり、本機の電源を切るか、機内モードに設定してください。

航空機内での使用については制限があるため、各航空会社の指示に従ってください。

航空機の電子機器に悪影響を及ぼす原因となります。

なお、航空機内での使用において禁止行為をした場合、法令により罰せられることがあります。



指示

病院での使用については、各医療機関の指示に従ってください。

使用を禁止されている場所では、本機の電源を切ってください。

電子機器や医用電気機器に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

ハンズフリーに設定して通話するときや、着信音が鳴っているとき、待受中などは、必ず本機を耳から離してください。

また、イヤホンマイクなどを本機に装着し、ゲームや動画・音楽再生などをする場合は、適度なボリュームに調節してください。

音量が大きすぎたり、長時間連続して使用したりすると難聴などの原因となります。

また、周囲の音が聞こえにくいと、事故の原因となります。



指示

心臓の弱い方は、着信バイブレータ(振動)や着信音量の設定に注意してください。

心臓に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

医用電気機器などを装着している場合は、医用電気機器メーカーもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。

医用電気機器などに悪影響を及ぼす原因となります。



指示

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、本機の電源を切ってください。

電子機器が誤動作するなどの悪影響を及ぼす原因となります。



指示

※ ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器、その他の自動制御機器など。植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器をご使用される方は、各医用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した際には、割れた強化ガラスや露出した本機の内部にご注意ください。

破損部や露出部に触れると、やけど、けが、感電などの原因となります。



指示

内蔵電池が漏液したり、異臭がしたりするとき、直ちに使用をやめて火気から遠ざけてください。

漏液した液体に引火し、発火、破裂などの原因となります。



指示

ペットなどが本機に噛みつかないようにご注意ください。

内蔵電池の発火、破裂、発熱、漏液により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



指示



注意

モーションセンサーや地磁気センサーのご利用にあたっては、必ず周囲の安全を確認し、本機をしっかりと握り、必要以上に振り回さないでください。

けがなどの事故の原因となります。



禁止

ディスプレイを破損し、内部の物質などが漏れた場合は、顔や手などの皮膚や衣類などにつけないでください。

失明や皮膚への傷害などを起こす原因となります。内部の物質などが目や口に入った場合や、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。

また、目や口に入った場合は、洗浄後直ちに医師の診療を受けてください。



禁止

一般のゴミと一緒に捨てないでください。

発火による火災、やけど、けがなどの原因となります。また、環境破壊の原因となります。不要となった本機は、ワイモバイルショップなど窓口にお持ちいただくか、回収を行っている市区町村の指示に従ってください。



禁止

内蔵電池内部の物質などが漏れた場合は、顔や手などの皮膚や衣類などにつけないでください。

失明や皮膚への傷害などを起こす原因となります。内部の物質などが目や口に入った場合や、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。

また、目や口に入った場合は、洗浄後直ちに医師の診療を受けてください。



禁止

自動車内で使用する場合、自動車メーカーもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上で使用ください。

車種によっては、まれに車載電子機器に悪影響を及ぼす原因となりますので、その場合は直ちに使用を中止してください。



指示

本機の使用により、皮膚に異状が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。

お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。

各箇所の材質については、「使用材料」(P.17ページ)をご参照ください。



指示

本機の手話口部、スピーカー部、カメラ部に磁気が発生する部品を使用しているため、金属片(カッターの刃やホチキスの針など)が付着していないことを確認してください。

付着物により、けがなどの原因となります。



指示

ディスプレイを見る際は、十分明るい場所で、ある程度の距離をとってください。

暗い場所や近くで見ると視力低下などの原因となります。



指示

29

ACアダプタ(オプション品)の取り扱いについて



警告

ACアダプタのコードが傷んだら使用しないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

ACアダプタは、風呂場などの湿気が多い場所では使用しないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

雷が鳴り出したら、ACアダプタには触れないでください。

感電などの原因となります。



禁止

コンセントにつないだ状態で充電端子をショートさせないでください。また、充電端子に手や指など、身体の一部を触れさせないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

ACアダプタのコードの上に重いものをのせたり、引っ張るなど無理な力を加えたりしないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

コンセントにACアダプタを抜き差しするときは、金属製ストラップなどの金属類を接触させないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

ACアダプタに海外旅行用の変圧器(トラベルコンバーター)を使用しないでください。

発火、発熱、感電などの原因となります。



禁止

本機にACアダプタを接続した状態で、接続部に無理な力を加えないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

30

濡れた手でACアダプタのコードや充電端子、電源プラグに触れないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



濡れ手禁止

指定の電源、電圧で使用してください。

また、海外で充電する場合は、海外で使用可能なACアダプタで充電してください。

誤った電源、電圧で使用すると火災、やけど、感電などの原因となります。

ACアダプタ: AC100V (家庭用交流コンセントのみに接続すること)

海外で使用可能なACアダプタ: AC100V~240V (家庭用交流コンセントのみに接続すること)

プラグについたほこりは、拭き取ってください。

ほこりが付着した状態で使用すると、火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

ACアダプタをコンセントに差し込むときは、確実に差し込んでください。

確実に差し込まないと、火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

電源プラグをコンセントから抜く場合は、ACアダプタのコードを引っ張るなど無理な力を加えず、ACアダプタを持って抜いてください。

ACアダプタのコードを引っ張るとコードが傷つき、火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

本機にmicroUSBプラグを抜き差しする場合は、コードを引っ張るなど無理な力を加えず、接続する端子に対してまっすぐ抜き差ししてください。

正しく抜き差ししないと、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



指示

充電端子が曲がるなど変形した場合は、直ちに使用をやめてください。また、変形を元に戻しての使用もやめてください。

充電端子のショートにより、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



指示

使用しない場合は、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを差したまま放置すると、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



電源プラグを抜く

水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)が入った場合は、直ちにコンセントから電源プラグを抜いてください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



電源プラグを抜く

お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

抜かずに行うと、火災、やけど、感電などの原因となります。



電源プラグを抜く



注意

コンセントにつないだ状態でACアダプタに長時間触れないでください。

やけどなどの原因となります。



禁止

SIMカードの取り扱いについて



注意

SIMカードを取り扱う際は指などの体の一部を傷つけないよう、切断面にご注意ください。

けがなどの原因となります。



指示

テレビアンテナケーブルの取り扱いについて



警告

使用中、充電中、保管中に、異臭、異音、発煙、発熱、変色、変形などの異常がみられた場合は次の作業を行ってください。

• テレビアンテナケーブルを本機から抜く。
上記の作業を行わないと、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



指示

テレビアンテナケーブルを本機から抜く場合は、コードを引っ張るなど無理な力を加えず、プラグを持って抜いてください。

コードを引っ張るとコードが傷付き、火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

雷が鳴り出したら、テレビアンテナケーブルには触れないでください。

感電などの原因となります。



禁止

テレビアンテナケーブルの上に重いものをのせたり、引っ張るなど無理な力を加えたりしないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

本機にテレビアンテナケーブルを抜き差しするときは、金属製ストラップなどの金属類を接触させないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

濡れた手でテレビアンテナケーブルに触れないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



濡れ手禁止

テレビアンテナケーブルは防水・防塵対応していません。

湿気やほこりの多い場所や高温になる場所での使用、保管はしないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

医用電気機器近くでの取り扱いについて



警告

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着されている場合は、装着部から本機を15cm以上離して携行および使用してください。

電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

自宅療養などにより医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。

電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

身動きが自由に取れないなど、周囲の方と15cm未満に近づくおそれがある場合には、事前に本機を電波の出ない状態に切り替えてください(機内モードまたは電源オフなど)。

付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着している方がいる可能性があります。電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

医療機関内における本機の使用については、各医療機関の指示に従ってください。

医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

お願いとご注意

ご利用にあたって

- SIMカードや、SIMカード装着済みの本機を盗難・紛失された場合は、必ずお問い合わせ先(☎ 78ページ)までご連絡のうえ、緊急利用停止の手続きを行ってください。
- 本機は、電波を利用しているため、特に屋内や地下街、トンネル内などでは電波が届きにくくなり、通話が困難になることがあります。また、通話中に電波状態の悪い場所へ移動すると、通話が急に途切れることがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本機を公共の場所でご利用いただくときは、周囲の人たちの迷惑にならないようご注意ください。
- 本機は電波法に定められた無線局です。したがって、電波法に基づく検査を受けていただくことがあります。あらかじめご了承ください。
- 一般の電話機やテレビ、ラジオなどをお使いになっている近くで本機を使用すると、雑音が入るなどの影響を与えることがありますので、ご注意ください。
- **傍受(ぼうじゅ)にご注意ください。**
本機は、デジタル信号を利用した傍受されにくい商品ですが、電波を利用している関係上、通常的手段を超える方法をとられたときには第三者が故意に傍受するケースもまったくないとはいえません。この点をご理解いただいたうえで、ご使用ください。
 - 傍受とは、無線連絡の内容を第三者が別の受信機で故意または偶然に受信することです。
- インターネットのサイトには、悪質なものや有害なものがあります。特に、個人情報の書き込みなどは慎重に行いましょう。
- 本機の画面には液晶を使用しています。
そのため、偏光特性を持ったサングラスをかけて画面を見ると、サングラスの特性や見る角度によっては暗くなったり歪んで見える場合がありますので、あらかじめご了承ください。

- 本機を他人に使わせたり譲渡する目的で海外へ持ち出す場合は、輸出許可が必要になることがありますが、旅行や出張時に本人が使用する目的で日本から持ち出し持ち帰る場合には許可は不要です。
米国輸出規制により本機をキューバ、イラン、朝鮮民主主義人民共和国、スーダン、シリアへ持ち込むためには米国政府の輸出許可が必要です。
- 本機では、Google Inc.が提供する「Google Play™」上より、さまざまなアプリケーションのインストールが可能です。お客様ご自身でインストールされるこれらのアプリケーションの内容(品質、信頼性、合法性、目的適合性、情報の真実性、正確性など)およびそれに起因するすべての不具合(ウイルスなど)につきましては、当社は一切の保証を致しかねます。

■ 高温時のご注意

- 操作方法や使用環境によっては、本機の内部温度が高くなり、熱くなることがあります。その際には安全のため、充電が停止したり、画面の明るさが調整される場合があります。また、本機の温度が高い状態のまま使用し続けると、警告画面が表示されたあと、約3分後に電源が切れますのでご注意ください。この場合には、本機の内部温度を下げるため、すべてのアプリケーションを終了してから、画面を消灯してください。
- カメラ使用時は、内部温度の高い状態のまま使用し続けると、警告画面が表示され、撮影データが保存されて自動終了します。

■ カメラについて

- カメラ機能は、一般的なモラルを守ってご使用ください。
- 大切なシーンを撮影されるときは、必ず試し撮りを行い、画像を表示して正しく撮影されていることをご確認ください。
- 撮影が禁止されている場所では撮影しないでください。
- カメラ機能を利用して撮影した画像は、個人として楽しむ場合などを除き、著作権者(撮影者)などの許可を得ることなく使用したり、転送することはできません。

■ マナーモードについて

- マナーモードを設定していても、カメラ撮影時のシャッター音、ビデオカメラ撮影時の撮影開始/終了音、音楽・動画・ゲームの音などは鳴ります。

■ テレビについて

- 本機は、電波を利用しているため、特に屋内や地下街、トンネル内などでは電波が届きにくくなり、テレビ視聴が困難になることがあります。また、テレビ視聴中に電波状態の悪い場所へ移動すると、映像が急に途切れることがありますので、あらかじめご了承ください。
- お客様のご利用環境によって電波の受信状態が異なるため、一部地域では視聴できない場合があります。受信状態の良い環境でご利用ください。


■ 内部ストレージについてのご注意

- お買い上げ時、本機で撮影した静止画や動画などのデータは、内部ストレージに保存されるように設定されています。
- お客様がダウンロードされたアプリケーション（市販品）によっては、保存先がSDカードと説明されている場合でも、データが内部ストレージに保存されますのでご注意ください。

■ 通話中 / 通信中のご注意

- 通話中や通信中は、同時に他の機能を使用している間や各種操作を行っている間も通話料、通信料がかかりますので、ご注意ください。
- JavaScript通信は、通信料が高額になる可能性があります。





■ 技術基準適合証明について

本機は、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合しています。次の操作で、技術基準適合証明に関する情報（等）を確認できます。

ホーム画面で  →  (設定) →  端末情報 →  規制情報

■ 電波障害自主規制について

本機は、VCCI自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合しており、その適合マークを本機の電子銘板に表示しています。電子銘板は、次の操作で確認できます。

ホーム画面で  →  (設定) →  端末情報 →  規制情報

■ SSL/TLSについて

本機には、あらかじめ認証機関から発行された電子的な証明書が登録されており、SSL/TLS(インターネット上でデータを暗号化して送受信する通信方法)を利用できます。

- セキュリティで保護されている情報画面を表示する場合は、お客様は自己の判断と責任においてSSL/TLSを利用するものとします。お客様ご自身によるSSL/TLSの利用に際し、ソフトバンク株式会社および認証会社である合同会社シマンテック・ウェブサイトセキュリティ、サイバートラスト株式会社は、お客様に対しSSL/TLSの安全性に関して何ら保証を行うものではありません。

お取り扱いについて

- 本機は温度：5℃～35℃、湿度：35%～90%の範囲でご使用ください。
- 極端な高温や低温環境、直射日光の当たる場所での使用、保管は避けてください。
- 使用中や充電中は本機や内蔵電池が温かくなることがありますが、異常ではありませんので、そのままご使用ください。
- お客様の取り扱いの不備による故障と認められたときは、保証の対象外となりますのでご了承ください。
- お手入れは、乾いた柔らかい布などで拭いてください。また、アルコール、シンナー、ベンジンなどを用いると色があせたり、文字が薄くなったりすることがありますので、ご使用にならないでください。
- 本機のディスプレイを堅い物でこすったり、傷つけないようご注意ください。
- 無理な力がかけられないようにお取り扱いください。故障やけがの原因となります。
 - ズボンやスカートのポケットに入れたまま、しゃがみこんだり椅子などに座らないでください。特に厚い生地のお衣服のときはご注意ください。
 - カバンなどに入れるときは、重い物の下にならないように十分ご注意ください。
- 本機の背面カバーは取り外しできません。無理に取り外そうとしないでください。破損や故障の原因となります。また、防水・防塵性能を損なう原因にもなります。
- 端子に指定品以外のものは、取り付けないでください。誤動作したり、破損することがあります。
- SDカードの使用中は本機の電源を切らないでください。データの消失・故障の原因となります。
- 歩行中は、周囲の音が聞こえなくなるほど、音量を上げないでください。事故の原因となります。
- 屋外で雷鳴が聞こえたときは使用しないでください。落雷・感電のおそれがあります。
- 本機を手にとって使用するときは、受話口や送話口、スピーカー、マイクをふさがないようにご注意ください。
- 近接センサーは、通話中にタッチパネルの誤動作を防ぐためのものです。センサー部分を指でふさいだり、シールなどを貼らないでください。通話中にディスプレイの表示が常に消えた状態になり、操作できなくなることがあります。

- 髪の毛の上から受話口を当てて通話すると、近接センサーが正常に動作しないことがあります。画面が点灯したままとなり、誤って画面に触れることによって、通話が切れる場合があります。
- 明るさセンサー部分を指でふさいだり、シールなどを貼らないでください。周囲の明るさによってセンサーが反応できなくなり、正しく動作しない場合があります。
- 本機は、受話口がディスプレイの上端中央部にあります。通話中相手の方の声が聞こえにくいときは、受話口をご確認のうえ、耳の中央の位置に合わせると、より聞き取りやすくなります。

■ 内蔵電池について

- 次の操作で、電池の消費を軽減できます。
ホーム画面で **設定** (歯車) → **電池** → **バッテリーセーバー** → **OFF**
- 内蔵電池の性能や寿命を低下させる原因となりますので、次の状態では保管しないでください。
 - (充電完了後すぐの) フル充電状態
 - (本機の電源が入らないほど) 電池残量がない状態
- 目安として、電池残量が40%程度での保管をおすすめします。
- 内蔵電池の使用条件によって、寿命が近づくにつれて内蔵電池が膨れることがあります。安全上問題はありません。
- 内蔵電池は消耗品です。十分に充電しても使用できる時間が極端に短くなったら、交換時期です。内蔵電池を交換してください。なお、内蔵電池は、お客様自身では交換できません。内蔵電池の交換については、「ワイモバイルショップ」などで、本機をお預かりして有料にて承ります。「ワイモバイルショップ」または「お問い合わせ先」(P.78ページ)へご相談ください。

■ リチウムイオン電池について

- 本機は、リチウムイオン電池を使用しています。リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。リサイクルは、お近くのモバイル・リサイクル・ネットワークのマークのあるお店で行っています。
- 充電／着信ランプが点滅しているときは充電ができていません。指定品のACアダプタを使用して充電してください。それでも充電ができない場合は、「ワイモバイルショップ」または「お問い合わせ先」(P.78ページ)へご相談ください。
- 海外での充電に起因するトラブルについては、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。



Li-ion00



■ ディスプレイ(タッチパネル)について

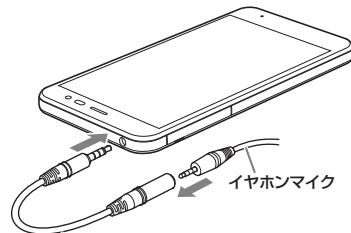
本機はディスプレイ部がタッチパネルとなっています。タッチパネルに水滴がついているときは、水滴を柔らかい布などで拭いてからご使用ください。

- 次のような操作を行うと、動作しないことがあります。
 - 手袋をした指や爪の先での操作
 - ペン、ボールペン、鉛筆など先のとがったものでの操作
 - 異物をタッチパネルに載せたままでの操作
 - 水分が付着した状態での操作
- 誤動作の原因となりますので、次の点にご注意ください。
 - 濡れた指で操作しない
 - タッチパネルに水滴がついている状態で操作しない
 - 強く押し過ぎない
 - ディスプレイにシールやシート類(市販の保護フィルムや覗き見防止シートなど)を貼らない
- 次のようなときは、**[ON]**を押して画面を消灯させたあと、再度**[ON]**を押して画面を点灯させてから操作してください。
 - タッチパネルに触れていないのに、本機が勝手に動作するとき
 - タッチパネルに触れても、本機が反応しないとき

■ テレビアンテナケーブルについて

テレビを視聴する場合は、テレビアンテナケーブルを本機のイヤホンマイク端子に接続してください。

- テレビアンテナケーブルを使用中にイヤホンマイクをご使用になる場合は、市販品のイヤホンマイクをテレビアンテナケーブルのイヤホンマイク端子に接続してください。



テレビアンテナケーブル

- プラグは奥まで確実に差し込んでください。途中で止まっていると、放送電波が受信できなかったり、音が聞こえないことがあります。
- 端子が汚れていると接触が悪くなりますので、端子を乾いた綿棒などで拭いてください。また、清掃する際には端子の破損に十分ご注意ください。
- テレビアンテナケーブルのプラグやイヤホンマイク端子を変形させないでください。故障の原因となります。
- イヤホンなどのコードを本機のアンテナ部分に近づけると、ノイズが入ることがあります。

■ イヤホンマイク端子について

お使いになるイヤホンマイクによっては、正常に動作しない場合があります。

- イヤホンマイク使用時、イヤホンマイク端子に強い負荷をあたえると防水・防塵性能が損なわれることがありますのでご注意ください。

■ 強制的に電源を切る方法について

本機が動作を停止したり入力を受け付けなくなったりしたときは、強制的に電源を切ることができます。

④ (8秒以上長押し)

- バイブレーションが動作したあとに指を離すと、電源が切れません。

■ データの初期化について

データの初期化をすると、内部ストレージのデータがすべて消去されます。必要なデータは事前にバックアップをとることをおすすめます。

消去された内容は、元に戻せませんので、十分にご確認のうえ操作してください。

ホーム画面で  →  (設定) → **バックアップとリセット** → **データの初期化** → **携帯端末をリセット** → **すべて消去**

- 画面ロックでセキュリティを設定している場合は、パターン/PIN/パスワードを入力します。

Bluetooth®機能について

Bluetooth®機能の利用時に、データや情報の漏洩により発生した損害につきましては、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■ 使用上の注意事項

本機のBluetooth®機能の周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器や、工場の製造ライン等で使用されている構内無線局、アマチュア無線局など(以下、「他の無線局」と略す)が運用されています。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記の事項に注意してご使用ください。

- 1 Bluetooth®機能を使用する前に、近くで同じ周波数帯を使用する「他の無線局」が運用されていないことを目視で確認してください。
- 2 万一、Bluetooth®機能の使用にあたり、本機と「他の無線局」との間に電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、Bluetooth®機能の使用を停止(電波の発射を停止)してください。
- 3 その他不明な点やお困りのことが起きたときには、「お問い合わせ先」(P.78ページ)へお問い合わせください。

● 周波数帯について

この無線機器は、2.4GHz帯を使用します。
FH1は変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は約10m以下です。
XX4は其他方式を採用し、与干渉距離は約40m以下です。
移動体識別装置の帯域を回避することはできません。

2.4FH1/XX4

Wi-Fi(無線LAN)について

無線LAN(以降「Wi-Fi」と記載)は、電波を利用して情報のやりとりを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続できる利点があります。その反面、セキュリティの設定を行っていないときは、第三者に情報を盗み見られてしまう可能性があります。お客様の判断と責任において、セキュリティの設定を行い、使用することを推奨します。

- 電気製品・AV・OA機器などの近くでは利用しないでください。通信速度の低下や通信不可、雑音などの可能性があります(特に電子レンジ使用時は、影響を受けることがあります)。
- 複数のアクセスポイントが存在するときは、正しく検索できないことがあります。

■ 使用上の注意事項

本機のWi-Fiの周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器や、工場の製造ライン等で使用されている構内無線局、アマチュア無線局など(以下、「他の無線局」と略す)が運用されています。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記の事項に注意してご使用ください。

- 1 Wi-Fiを使用する前に、近くで同じ周波数帯を使用する「他の無線局」が運用されていないことを目視で確認してください。
- 2 万一、Wi-Fiの使用にあたり、本機と「他の無線局」との間に電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、Wi-Fiの使用を停止(電波の発射を停止)してください。
- 3 その他不明な点やお困りのことが起きたときには、「お問い合わせ先」(P.78ページ)へお問い合わせください。

● 周波数帯について

この無線機器は、2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS/OFDM変調方式を採用し、与干渉距離は40m以下です。

2.4DS/OF4

■ Bluetooth®との同時利用について

Wi-Fi(IEEE802.11b/g/n)は、Bluetooth®と同一周波数帯(2.4GHz)を使用するため、近くでBluetooth®機器を利用したり、本機のBluetooth®が有効になっていると、通信速度の低下や雑音、接続不能の原因になることがあります。接続に支障があるときは、Bluetooth®機器の利用を中止したり、本機のBluetooth®を無効にしてください。

- 本機のWi-Fiで設定できるチャンネルは1-13です。これ以外のチャンネルのアクセスポイントには接続できませんのでご注意ください。
- 利用可能なチャンネルは、国により異なります。
- 航空機内の使用は事前に各航空会社へご確認ください。
- 一部の国/地域では、Wi-Fiの使用が制限されます。海外で利用するときは、その国/地域の法規制など条件をご確認ください。

防水・防塵性能について

本機の防水・防塵性能

本機は、カード挿入口キャップをしっかりと閉じた状態で、IPX5※1、IPX8※2相当の防水性能およびIP5X※3相当の防塵性能を有しています。

- ※1 IPX5とは、内径6.3mmの注水ノズルを使用し、約3mの距離から約12.5リットル/分の水を最低3分間注水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、電話機としての機能を有することを意味します。
 - ※2 IPX8とは、常温で水道水、かつ静水の水深1.5mのところにて電話機を静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときに電話機としての機能を有することを意味します。
 - ※3 IP5Xとは、保護度合いを指し、直径75μm以下の塵埃(じんあい)が入った装置に電話機を8時間入れてかかはんさせ、取り出したときに電話機の機能を有し、かつ安全を維持することを意味します。
- 実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。お客様の取り扱いの不備による故障と認められたときは、保証の対象外となりますのでご了承ください。
 - 本機は、IPX5/IPX8の防水およびIP5Xの防塵性能を有していますが、ホコリ、砂、泥、金属粉、食べこぼし、清涼飲料水、海水などが入った場合には、故障の原因となることがあります。

本機のお取り扱いについて

- カード挿入口キャップはしっかりと閉じてください。パッキンとの接触面に細かいゴミ(髪の毛1本、砂粒1個、微細な繊維など)がはさまると、水や粉じんが入る原因となります。
- カード挿入口キャップが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切ってください。
- 本機が濡れているときは、乾いたきれいな布で拭き取ってください。
- 手が濡れているときや本機に水滴や異物が付いているときには、カード挿入口キャップの開閉は絶対にしないでください。
- イヤホンマイク端子、外部接続端子は、濡れていたり、砂やほこりが付着した状態でご使用にならないでください。防水・防塵性能が損なわれたり、感電や回路のショートなどによる、故障・やけど・火災の原因となります。
- 常温(5℃～35℃)の真水・水道水にのみ対応しています。

使用時のご注意

- 本機に次のような液体をかけたり、つけたりしないでください。
 - 石けん、洗剤、入浴剤を含んだ水
 - 海水、プールの水
 - 温泉、熱湯など
- 海水やプールの水、清涼飲料水などがかかったり、ホコリ、砂、泥などが付着した場合には、すぐに常温(5℃～35℃)の真水・水道水で洗い流してください。乾燥して固まると、汚れが落ちにくくなり、故障の原因となります。
- 湯船やプールなどにつけないでください。また、水中で使用しないでください(キー操作を含む)。
- 本機は耐水圧設計ではありません。水道やシャワーなどで強い流水(6リットル/分を超える)を当てたり、水中に沈めたりしないでください。
- 風呂場など湿気の多い場所には、長時間放置しないでください。また、風呂場で長時間利用しないでください。
- 送話口、受話口、スピーカーなどの穴に水が入ったときは、一時的に音量が小さくなる場合があります。十分に水抜きと乾燥(51ページ)を行ったうえでご使用ください。
- ACアダプタなどのオプション品は、防水・防塵対応していません。屋外や風呂場、洗面所など湿気の強い場所や水のかかる可能性のある場所では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 落下させるなど、本機に強い衝撃を与えたり、送話口、受話口、スピーカー、マイクなどをとがったものでつつかないでください。防水・防塵性能が損なわれることがあります。
- 砂浜、砂場などの砂の上に直接置かないでください。受話口、スピーカーなどに砂が入り、音が小さくなる恐れがあります。
- 結露防止のため、寒い場所から風呂場などへは本機が常温になってから持ち込んでください。万一、結露が発生したときは、取れるまで常温で放置してください。
- 本機は水に浮きません。
- 強い雨の中では使用しないでください。

充電時のご注意

- 本機またはACアダプタが濡れている状態では、microUSBプラグを絶対に接続しないでください。本機は防水機能を有しておりますが、濡れた状態でmicroUSBプラグを挿入すると、本機やmicroUSBプラグに付着した液体（水道水、清涼飲料水、海水、ペットの尿など）や異物などにより、感電や回路のショートなどによる異常発熱・焼損・火災・故障・やけどなどの原因となります。
- ACアダプタは、水周りで使用しないでください。火災・感電の原因となります。

防水・防塵性能を維持するために

- カード挿入口キャップのゴムパッキンは、防水・防塵性能を維持するための重要な役割を担っています。次のことにご注意ください。
 - はがしたり、傷つけたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。
 - カード挿入口キャップが傷ついたり、変形したりしたときは、「ワイモバイルショップ」にご相談ください。
- カード挿入口キャップのすき間、イヤホンマイク端子、外部接続端子に、先のとがったものを差し込まないでください。
- 防水・防塵性能を維持するため、異常の有無にかかわらず、2年に1回、カード挿入口キャップを交換することをおすすめします。お客様ご依頼によるカード挿入口キャップの交換は、本機をお預かりして有料にて承ります。「ワイモバイルショップ」または「お問い合わせ先」(P.78ページ)へご相談ください。

本機の洗いかた

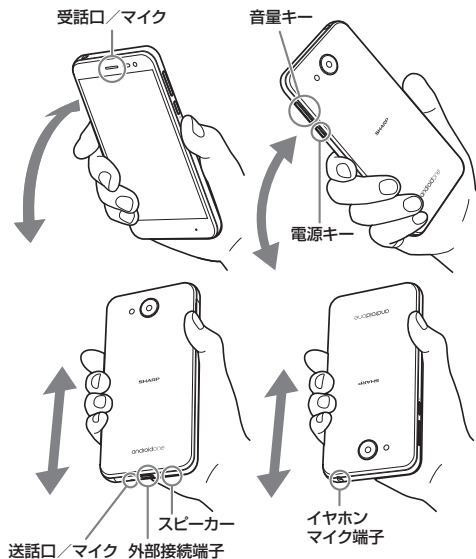
本機に汚れ、ホコリ、砂、清涼飲料水などが付着したときは、汚れを軽く布で除去し、やや弱めの水流〔6リットル/分以下、常温(5℃~35℃)の水道水〕で蛇口やシャワーから約10cm離して洗います。カード挿入口キャップが開かないように押さえたま、ブラシやスポンジなどは使用せず手で洗ってください。洗ったあとは、水抜きをしてから使用してください。よく乾燥したあと、電源を入れてください。

- カード挿入口キャップが、きちんと閉まっていることを確認してから洗ってください。
- 洗濯機や超音波洗浄機などで洗わないでください。
- イヤホンマイク端子、外部接続端子は、特にホコリや砂などの汚れが付着しやすい部位です。汚れを残さないようしっかりと洗い流してください。また、水洗い後は十分に乾燥したことを確認したうえでご使用ください。砂や水滴が端子部に残ったままの状態でご使用になりますと、故障・やけど・火災の原因となります。
- イヤホンマイク端子、外部接続端子を洗うときは、綿棒などの道具を使用したり、布を端子内部に押し込んだりしないでください。防水性能が損なわれるなど、故障の原因となります。

水抜きのかた

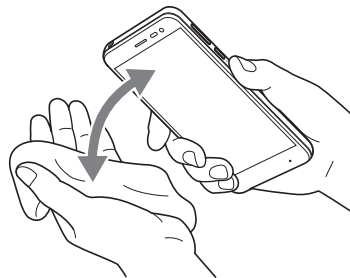
水に濡れたあとは、必ず「受話口」、「音量キー」、「電源キー」、「送話口」、「マイク」、「外部接続端子」、「スピーカー」、「イヤホンマイク端子」の水抜きを行ってください。

- 1 本機表面の水分を乾いた布などで拭く
- 2 本機をしっかりと持ち、20回程度振る



- 本機を振るときは、落とさないようにしっかりと握ってください。

- 3 各部の穴やすき間に入った水分を、乾いた布などに押し当てて拭き取る



- 各部の穴に水がたまっていることがありますので、開口部に布などを当てて軽くたたいて水を出してください。

- 4 乾いた布などを下に敷き、2～3時間程度常温で放置する

水を拭き取る際のご注意

- 各部の穴の水を抜く際は、布や綿棒などを内部に押し込んだりしないでください。防水性能が損なわれることがあります。

水抜き後のご注意

- 水滴が付着したままで使用しないでください。
 - 通話不良となったり、衣服やカバンなどを濡らしてしまうことがあります。
 - イヤホンマイク端子、外部接続端子などがショートする恐れがあります。
 - 寒冷地では凍結し、故障の原因となることがあります。

知的財産権について

肖像権について

- 他人から無断で写真を撮られたり、撮られた写真を無断で公表されたり、利用されたりすることがないように主張できる権利が肖像権です。肖像権には、誰にでも認められている人格権と、タレントなど経済的利益に着目した財産権（パブリシティ権）があります。したがって、勝手に他人やタレントの写真を撮って公開したり、配布したりすることは違法行為となりますので、適切なカメラ機能のご使用を心がけてください。

著作権について

- 音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作物および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。この目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをなされる場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用を心がけていただけますよう、お願いいたします。また、本製品にはカメラ機能が搭載されていますが、本カメラ機能を使用して記録したものにつきましても、上記と同様の適切なご使用を心がけていただけますよう、お願いいたします。

本機に搭載のソフトウェアは著作物であり、著作権、著作人人格権などをはじめとする著作権等の権利が含まれており、これらの権利は著作権法により保護されています。ソフトウェアの全部または一部を複製、修正あるいは改変したり、ハードウェアから分離したり、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング等を行わないでください。第三者にこのような行為をさせることも同様です。

オープンソースソフトウェアについて

- 本機には、GNU General Public License (GPL)、GNU Lesser General Public License (LGPL)、その他のライセンスに基づくソフトウェアが含まれています。次の操作で、当該ソフトウェアのライセンスに関する詳細を確認できます。
ホーム画面で  → **設定** → **端末情報** → **法的情報** → **オープンソースライセンス**
- GPL、LGPL、Mozilla Public License (MPL) に基づくソフトウェアのソースコードは、下記サイトで無償で開示していません。詳細は下記サイトをご参照ください。
<http://k-tai.sharp.co.jp/support/developers/oss/>

商標 / 登録商標について

動画の撮影 / 再生の技術には「MPEG-4」が使われています。

This product is licensed under the MPEG-4 Visual Patent Portfolio License for the personal and non-commercial use of a consumer to (i) encode video in compliance with the MPEG-4 Video Standard ("MPEG-4 Video") and/or (ii) decode MPEG-4 Video that was encoded by a consumer engaged in a personal and noncommercial activity and/or was obtained from a licensed video provider. No license is granted or implied for any other use. Additional information may be obtained from MPEG LA. See <http://www.mpegla.com>.

This product is licensed under the MPEG-4 Systems Patent Portfolio License for encoding in compliance with the MPEG-4 Systems Standard, except that an additional license and payment of royalties are necessary for encoding in connection with (i) data stored or replicated in physical media which is paid for on a title by title basis and/or (ii) data which is paid for on a title by title basis and is transmitted to an end user for permanent storage and/or use. Such additional license may be obtained from MPEG LA, LLC. See <http://www.mpegla.com> for additional details.

本製品は、AVCポートフォリオライセンスに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために(i)AVC規格準拠のビデオ(以下「AVCビデオ」と記載します)を符号化するライセンス、および/または(ii)AVCビデオ(個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたAVCビデオ、および/またはAVCビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したAVCビデオに限り)を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておられません。さらに詳しい情報については、MPEG LA, L.L.C.から入手できる可能性があります。<http://www.mpegla.com> をご参照ください。本製品は、VC-1 Patent Portfolio Licenseに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために(i)VC-1規格準拠のビデオ(以下「VC-1ビデオ」と記載します)を符号化するライセンス、および/または(ii)VC-1ビデオ(個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたVC-1ビデオ、および/またはVC-1ビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したVC-1ビデオに限り)を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておられません。さらに詳しい情報については、MPEG LA, L.L.C.から入手できる可能性があります。<http://www.mpegla.com> をご参照ください。

Microsoft®、Excel®、PowerPoint®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft® Excel®, Microsoft® Wordは、米国のMicrosoft Corporationの商品名称です。

Bluetooth® is a trademark of the Bluetooth SIG, Inc.



The Bluetooth word mark and logos are owned by the Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by Sharp is under license. Other trademarks and trade names are those of their respective owners. Bluetooth®は、米国Bluetooth SIG, Inc.の登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。



microSD、microSDHC、microSDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。

本製品は、無線LAN標準規格のIEEE802.11に基づき、無線LAN機器の相互接続性を保証するためにWi-Fi Alliance®が定めている認証テストをパスしており、「Wi-Fi CERTIFIED™」という認定が与えられています。IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応しております。



Wi-Fi Protected Setup™(WPS)で、無線LANの接続設定内容(SSIDや認証方式、暗号キーなど)をプッシュボタン方式、PINコード入力方式で設定できる機能を有しています。



Wi-Fi®、Wi-Fi Alliance®、Wi-Fi Protected Access®(WPA)、Wi-Fi CERTIFIEDロゴ、Wi-Fi Protected Setupロゴ、Wi-Fi Direct®、Miracast®はWi-Fi Allianceの登録商標です。Wi-Fi CERTIFIED™、Wi-Fi Protected Setup™、WPA2™はWi-Fi Allianceの商標です。

Google、Google ロゴ、Android™、Android ロゴ、Google Play、Google Play ロゴ、Google+™、Gmail™、Gmail ロゴ、Google カレンダー™、Google カレンダー ロゴ、Google マップ™、Google マップ ロゴ、Google Chrome™、Google Chrome ロゴ、Google™ 検索、Google 検索 ロゴ、Google 音声検索™、Google 音声検索 ロゴ、Google Now™、YouTube™、YouTube ロゴ、Google ドライブ™、Google ドライブ ロゴ、ハンガアウト™およびGoogle フォト™は、Google Inc. の商標です。

DLNA®、DLNAロゴおよびDLNA CERTIFIED™ は、Digital Living Network Alliance の商標です。DLNA®, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED™ are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance. 本機のDLNAの認定はシャープ株式会社が取得しました。

DigiOnおよびDiXiMは株式会社デジオンの商標です。

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)

この製品には、OpenSSL Toolkit における使用のために OpenSSL プロジェクトによって開発されたソフトウェアが含まれています。

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)

この製品には、Eric Young によって作成された暗号化ソフトウェアが含まれています。

Portions Copyright © 2004 Intel Corporation
この製品には、Intel Corporation のソフトウェアを一部利用しております。

MPEG Layer-3オーディオデコーディング技術はFraunhofer IIS及びThomsonから実施許諾されています。

「Yahoo!」および「Yahoo!」のロゴマークは、米国Yahoo! Inc.の登録商標または商標です。

Copyright © 2015 Yahoo Japan Corporation. All Rights Reserved.

©SoftBank Corp. /Powered by MediaDo

SOFTBANKおよびソフトバンクの名称、ロゴは日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。

© Yahoo Japan, © OPeNBook

その他の記載している会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本製品の比吸収率(SAR)について

この機種【507SH】の携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および国際ガイドラインに適合しています。

電波の人体吸収に関する国の技術基準*1は、人体の近くで使用する携帯電話機などの無線機器から送出される電波が人間の健康に影響を及ぼさないよう、科学的根拠に基づいて定められたものであり、人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)について、2W/kgの許容値を超えないこととしています。この許容値は、使用者の年齢や身体の大きさに関係なく十分に安全な値として設定されており、世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が示した国際的なガイドラインにおける値と同じ値です。

本携帯電話機【507SH】の頭部におけるSARの最大値は0.628W/kg*2であり、また下記の方法*3により身体に装着した場合のSARの最大値は0.481W/kg*2です。これらは、国が定めた方法に従い、携帯電話機の送信電力を最大にして測定された最大の値です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満たしています。また、携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通信等を行っている状態では、通常SARはより小さい値となります。

頭部以外の位置におけるご使用方法*3

この携帯電話機は、頭部以外の位置でも使用可能です。キャリアングケース等のアクセサリをご使用になるなどして、身体から1.5センチ以上離し、かつその間に金属(部分)が含まれないようにすることで、この携帯電話機は電波の人体吸収に関する国の技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合します。

*1 技術基準については、電波法関連省令(無線設備規則第14条の2)に規定されています。

*2 <携帯電話サービス>と同時に使用可能な無線機能を含みます。

世界保健機関は、「携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。」と表明しています。

また、SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm>

一般社団法人電波産業会のホームページ

<http://www.arib-emf.org/01denpa/denpa02-02.html>

電波ばく露の影響に関する情報として、欧州における基準および米国連邦通信委員会(FCC)の基準を掲載しています。詳細は「欧州における電波ばく露の影響に関する情報」、「米国連邦通信委員会(FCC)の電波ばく露の影響に関する情報」をご参照ください。

「欧州における電波ばく露の影響に関する情報」

本携帯電話機【507SH】は、国際的ガイドラインが定める電波の許容値を超えないことが確認されています。このガイドラインは、独立した科学機関である国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が策定したものであり、その許容値は、使用者の年齢や健康状態にかかわらず十分に安全な値となっています。携帯電話機から送出される電波の人体に対する影響は、比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)という単位を用いて測定します。携帯機器におけるSARの許容値は2W/kgで、本携帯電話機の側頭部におけるSARの最大値は0.552W/kg、アクセサリ等により人体より0.5センチ以上離して、その間に金属(部分)が含まれないようにして使用する場合のSARの最大値は1.201W/kgです。

「米国連邦通信委員会(FCC)の電波ばく露の影響に関する情報」

米国連邦通信委員会の指針は、独立した科学機関が定期的かつ周到に科学的研究を行った結果策定された基準に基づいています。この許容値は、使用者の年齢や健康状態にかかわらず十分に安全な値となっています。

携帯電話機から送出される電波の人体に対する影響は、比吸収率 (SAR: Specific Absorption Rate) という単位を用いて測定します。FCCで定められているSARの許容値は、1.6W/kgとなっています。

測定試験は機種ごとにFCCが定めた位置で実施され、本携帯電話機の側頭部におけるSARの最大値は0.53W/kg、下記のとおりに従って身体に装着した場合のSARの最大値は0.48W/kgです。

身体装着の場合: この携帯電話機【507SH】では、一般的な携帯電話の装着法として身体から1.0センチに距離を保ち携帯電話機の背面を身体に向ける位置で測定試験を実施しています。FCCの電波ばく露要件を満たすためには、身体から1.0センチの距離に携帯電話を固定できる装身具を使用し、ベルトクリップやホルスターなどには金属部品の含まれていないものを選んでください。上記の条件に該当しない装身具は、FCCの定めるSAR許容値を満たさない場合もあるので使用を避けてください。

比吸収率 (SAR) に関するさらに詳しい情報をお知りになりたい場合は下記のホームページを参照してください。

FCC Radio Frequency Safety (英文のみ)
<http://transition.fcc.gov/oet/rfsafety/>

世界保健機関は、携帯機器の使用に関して、現在の科学情報では人体への悪影響は確認されていないと表明しています。また、電波の影響を抑えたい場合には、通話時間を短くすること、または携帯電話機を頭部や身体から離して使用することが出来るハンズフリー用機器の利用を推奨しています。さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。

世界保健機関 (英文のみ)
<http://www.who.int/emf>

Radio Wave Exposure and Specific Absorption Rate (SAR) Information

Specific Absorption Rate (SAR) for This Product (for Japan)

This mobile phone [507SH] meets the Japanese technical regulations* and international guidelines for exposure to radio waves.

The Japanese technical regulations for exposure to radio frequency energy established permitted levels of radio frequency energy, based on standards developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies.

The regulation employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

The SAR limit is 2 watts/kilogram (W/kg) averaged over ten grams of tissue.

The limit includes a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The value of the limit is equal to the value given in international guidelines recommended by ICNIRP**, which is in collaboration with the World Health Organization (WHO).

The highest SAR value for this mobile phone is 0.628 W/kg*** when tested for use at the ear, and 0.481 W/kg*** when worn on the body in the below manner****.

While there may be differences between the SAR levels of various phones and at various positions, all phones meet the Japanese technical regulations.

Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR of the phone during operation can be well below the maximum value.

Use at positions other than at the ear****

This mobile phone may be used at positions other than at the ear. By using an accessory such as a belt clip holster that maintains a 1.5 cm separation with no metal (parts) between the body and the mobile phone, this mobile phone will comply with international guidelines for radio wave protection.

* The technical regulation is provided in Article 14-2 of the Ministry Ordinance Regulating Radio Equipment.

** International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection

*** The value is under simultaneous transmission use conditions.

The World Health Organization has announced that "A large number of studies have been performed over the last two decades to assess whether mobile phones pose a potential health risk. To date, no adverse health effects have been established as being caused by mobile phone use."

For more information about SAR, see the following websites:

Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC)
<http://www.tele.soumu.go.jp/e/sys/ele/body/index.htm>

Association of Radio Industries and Businesses (ARIB)
<http://www.arib-empf.org/01denpa/denpa02-02.html>
(Japanese)

This mobile phone [5075H] is confirmed to comply with guidelines relating to effects of radio wave exposure as set forth by the Council of Europe (CE) and the Federal Communications Commission (FCC). Refer to the following.

■ European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health. The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2.0 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear is 0.552 W/kg*. As mobile devices offer a range of functions, they can be used in other positions, such as on the body. In this case, the highest tested SAR value is 1.201 W/kg* at the separation distance of 0.5 cm from the body. For electronic safety, maintain the separation distance with accessories containing no metal, that position handset a minimum of the above distance. Use of other accessories may not ensure compliance with RF exposure guidelines.

* The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

■ FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver. It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.

The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organization through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg. The tests are performed in positions and locations (e.g. at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model. The highest SAR value for this model handset as reported to the FCC when tested for use at the ear is 0.53 W/kg, and when worn on the body in a holder or carry case, is 0.48 W/kg.

Body-worn Operation; This device was tested for typical body-worn operations with the handset kept 1.0 cm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 1.0 cm separation distance between the user's body and the handset. The use of beltclips, holsters and similar accessories should not contain metallic components in its assembly.

The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided. The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of <http://www.fcc.gov/oet/ea/> after searching on FCC ID APYHRO00237.

Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the FCC website at <http://transition.fcc.gov/oet/rfsafety/>.

FCC ID Location

The device is electronically labeled and the FCC ID can be displayed via the About phone & the Regulatory information under the Settings menu.

The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head and body.

World Health Organization
<http://www.who.int/emf>

General Notes

Handset

Do not disassemble or modify handset.

CE Declaration of Conformity

CE 0168

Hereby, Sharp Telecommunications of Europe Ltd, declares that 5075H is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC. A copy of the original declaration of conformity for each model can be found at the following Internet address: <http://www.sharp.co.jp/k-tai/>

Battery Cautions

Use specified Charger only.

Non-specified equipment use may cause Internal Battery to leak, overheat, burst or ignite, and may cause Charger to overheat, ignite, malfunction, etc.

Battery is built into handset. Do not dispose of handset with ordinary refuse; take it to a Y!mobile Shop for appropriate disposal.

Charge handset in ambient temperature 5°C - 35°C; Internal Battery may leak/overheat and performance may deteriorate outside this range.

Mobile Light

Do not shine Mobile Light in eyes.

May temporarily affect eyesight or startle, leading to accidents.

Volume Level Caution




To prevent possible hearing damage, do not listen at high volume levels for long periods.

Headphone Signal Level

The maximum output voltage for Music Player function, measured in accordance with EN 50332-2, is 116 mV.

Stand-by Mark

: This symbol means the stand-by on/off.

FCC Notice

- This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
 - (1) This device may not cause harmful interference, and
 - (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
- Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

■ FCC Information to User

This equipment has been tested and found to comply with the limits of a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules.

These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation.

This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation; if this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Reorient/relocate the receiving antenna.
2. Increase the separation between the equipment and receiver.
3. Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Y!mobile Customer Support

General Information

From a Y!mobile handset, dial 151 (charges apply).

ソフトウェア更新について

ネットワークを利用して本機のソフトウェア更新が必要かどうかを確認し、必要なときには手動で更新できます。

ソフトウェア更新を行う前に

- 本機の状況(故障・破損・水濡れなど)によっては、保存されているデータが破棄されることがあります。
必要なデータは、ソフトウェア更新前にバックアップしておくことをおすすめします。なお、データが消失した場合の損害につきましては、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

ソフトウェア更新についてのご注意

- 更新が完了するまで、本機は使用できません。
- 電波状態の良い所で、移動せずに操作してください。また、電池残量が十分ある状態で操作してください。更新途中で電波状態が悪くなったり、電池残量がなくなると、更新に失敗することがあります(更新に失敗すると本機が使用できなくなることがあります)。
- 他の機能を操作しているときは、ソフトウェア更新は行えません。
- 本機にケーブルを接続しているときは、取り外してください。そのままソフトウェア更新を実行すると、正しく完了できないことがあります。

手でソフトウェア更新する

手で更新するときは、次の操作を行います。

- 1 ホーム画面で    (設定)
- 2 端末情報
- 3 システムアップデート
- 4 アップデートをチェック

- 以降は、画面に従って操作してください。

■ソフトウェア更新が完了すると

ソフトウェア書き換え完了画面が表示されたあと、自動的に再起動します。

ソフトウェア更新後に再起動しなかったとき

- 本機を再起動(強制的に電源を切る方法について: [P.45](#)ページ)してください。それでも起動しないときは、お問い合わせ先([P.78](#)ページ)へご相談ください。

保証とアフターサービス

■保証について

本機をお買い上げいただいた場合は、保証書がついております。

- お買い上げ店名、お買い上げ日をご確認ください。
- 内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。
- 保証期間は、保証書をご覧ください。

- 本製品の故障、誤作動または不具合などにより、通話などの機会を逸したために、お客様、または第三者が受けられた損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 故障または修理により、お客様が登録/設定した内容が消失/変化する場合がありますので、大切な電話帳などは定期的にバックアップをとっておかれることをおすすめします。なお、故障、修理、機種変更の際や、その他の取り扱いなどによって、本機に登録したデータ(電話帳、画像/サウンドなど)や設定した内容が消失/変化した場合の損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本製品を分解/改造すると、電波法にふれることがあります。また、改造された場合は修理をお引き受けできませんので、ご注意ください。
- ディスプレイ部やキー部にシールなどを貼ったり、接着剤などで本製品に装飾を施すと、改造とみなされることがあり、修理をお引き受けできない場合があります。

■アフターサービスについて

修理を依頼される場合、最寄りのワイモバイルショップまたはお問い合わせ先([P.78](#)ページ)へご相談ください。

その際、できるだけ詳しく異常の状態をお聞かせください。

- 保証期間中は保証書の記載内容に基づいて修理いたします。
- 保証期間後の修理につきましては、修理により機能が維持できる場合は、ご要望により有償修理いたします。

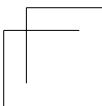
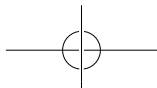
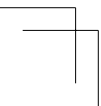
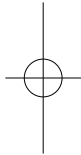
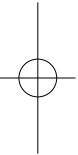
アフターサービスについてご不明な点は、最寄りのワイモバイルショップまたはお問い合わせ先([P.78](#)ページ)までご連絡ください。



Memo



Memo

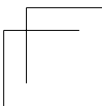
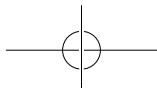
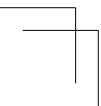
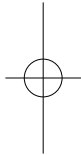
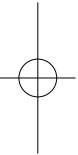




Memo



Memo



Memo

お問い合わせ先一覧

お困りのときや、ご不明な点などございましたら、お気軽に下記お問い合わせ窓口までご連絡ください。

ワイモバイル カスタマーセンター

■総合窓口(通話料有料)

ワイモバイルのスマートフォン・ケータイから 151
一般電話、他社携帯電話から 0570-039-151
受付時間：9:00～20:00(年中無休)

■各種手続き(通話料無料)

ワイモバイルのスマートフォン・ケータイから 116
一般電話、他社携帯電話から 0120-921-156
受付時間：自動音声応答にて24時間受付(年中無休)

■海外から(通話料有料)

+81-44-382-0800
受付時間：9:00～20:00(日本時間/年中無休)

※ お問い合わせの際に、ワイモバイルのスマートフォン・ケータイの電話番号と暗証番号(新規ご契約時にお客様にてお決めいただいた4桁の番号)が必要となります。

ワイモバイルホームページ

<http://ymobile.jp/>